

4 爬虫類

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

1. 三重県の爬虫類相

三重県の陸産爬虫類は、2目9科16種（外来種2種を含む）が記録されている（清水ほか，2018）。また、近年の遺伝的研究の進展により、これまで亜種として扱われていたチュウゴクスッポン *Pelodiscus sinensis* とニホンスッポン *P. japonicus* がそれぞれ独立種として位置づけられた（日本爬虫両棲類学会，2024）。前者は日本に持ち込まれて定着し、後者との交雑も行われているが、両種の識別は遺伝子検査によるしかなく、生息状況の把握を行う上で大きな課題となっている。なお、県内の陸産爬虫類は外来種のチュウゴクスッポンが追加されて17種となる。

海産爬虫類については、2目9種の記録がみられるが（富田，1980）、今回の調査対象としたのは県内で上陸産卵するアカウミガメと沿岸部で採餌するアオウミガメの2種とした。

2. 調査の概要

既存文献については、清水ほか（2018）により2017年までの情報が収集されていることから、2018年以降の文献を収集した。あわせて、三重県レッドデータブック2015（三重県農林水産部みどり共生推進課，2015）および環境省レッドリスト2020（環境省，2020）に選定されている種を中心に、既存資料に記録のある地点での生息状況についての現地調査を実施した。

なお、分類については日本爬虫両棲類学会（2021）に準拠し、適宜新知見を取り入れた。

3. 絶滅危惧種の概要

2015年版の掲載種3種と新たにニホンイシガメ1種を追加し、絶滅危惧IB類1種、絶滅危惧II類2種、準絶滅危惧1種の計4種を選定した。これらの選定理由のなかで、ウミガメ類2種については漁業による混獲の影響が共通しており、また、アカウミガメは混獲による個体数減少とともに、海浜環境の悪化による産卵適地の消失が指摘されている。混獲については、「三重県レッドデータブック2005動物」においても問題点として指摘されており（若林，2006）、その後、さまざまな対策技術の開発・提唱がなされているが（たとえば、田村ほか，2014）、活用されることなく今日に至っている。行政機関においては、混獲防止技術の普及に向けて本腰をいれてもらいたい。

淡水亀2種のなかでニホンスッポンは、これまでは情報不足のカテゴリーであったが、遺伝子研究の進展により生息状況の一端が明らかになった。予想された通り、国外由来のチュウゴクスッポンの定着や交雑が明らかになったことで対策方針の立案が可能となり、今後の保全対策において大きな進展である。同様に、ニホンイシガメについても外来種が大きな影響を及ぼしている。アカミミガメとの競合や国外由来のクサガメとの交雑など、対策には長期的な取り組みが見込まれることから、早期の着手が賢明な判断である。また、ペット目的の捕獲も盛んであることから、捕獲や飼育の制限、国外への持ち出し規制等の法整備も必要である。

引用文献

- 環境省. 2020. 【爬虫類】環境省レッドリスト2020. <https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>. (2024年7月27日参照)
- 三重県農林水産部みどり共生推進課（編）. 2015. 三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 三重県農林水産部みどり共生推進課，津，757pp.
- 日本爬虫両棲類学会（編）. 2021. 新日本両生爬虫類図鑑. サンライズ出版，彦根，232pp.
- 日本爬虫両棲類学会. 2024. 類日本産爬虫両生類標準和名リスト（2024年3月11日版）https://herpetology.jp/wamei/index_j.php. (2024年7月27日参照)
- 清水善吉・富田靖男・上田利彦. 2018. 三重県の哺乳類・爬虫類・両生類. みえ生物誌一哺乳・爬虫・両生類，鳥類，pp.1-102. 三重自然誌の会，松阪.
- 田村怜子・塩出大輔・金子由佳里・胡夫祥・東海正・小林真人・阿部寧. 2014. 中層・低層定置網の箱網用海亀脱出装置に対する海亀の行動. 水産学会誌，80(6): 900-907.
- 富田靖男. 1980. 三重県の爬虫・両生類相. 三重県立博物館研究報告自然科学，(2): 1-67.
- 若林郁夫. 2006. アカウミガメ. 三重県環境森林部自然環境室（編）. 三重県レッドデータブック2005動物，p.115. 三重県環境保全事業団，津.

（清水善吉）

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

爬虫類レッドリスト

目名	科名	和名	学名	三重県		環境省	掲載頁
				新	旧		
カメ目	ウミガメ科	アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i> (Linnaeus, 1758)	EN	VU	EN	77
カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i> (Temminck et Schlegel, 1838)	VU	—	NT	77
カメ目	スッポン科	ニホンスッポン	<i>Pelodiscus japonicus</i> (Temminck et Schlegel, 1838)	VU	DD	DD	77
カメ目	ウミガメ科	アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i> (Linnaeus, 1758)	NT	NT	VU	78

アカウミガメ

Caretta caretta (Linnaeus, 1758)

カメ目 ウミガメ科

【選定理由】日本各地で産卵が減少しており、本県においても同様である。また、中国沿岸や日本周辺において、漁業によって混獲され死亡する個体が増加傾向にあるためVUからENに変更。

【種概要】甲長は70～100 cmで、頭部や背甲は茶褐色である。貝類、甲殻類などを食べる。

【分布】太平洋、大西洋、インド洋の熱帯海域から温帯海域、地中海に広く回遊する。北太平洋における産卵場は日本にしかなく、日本で生まれた子ガメは海流によってメキシコ沖などへ運ばれ、成長した後に再び日本近海に出現する。三重県沿岸へは主に春から秋に回遊し、夏に各地の砂浜で産卵する。

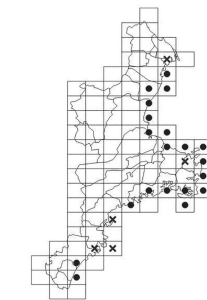
【現状・減少要因】北太平洋の個体群は混獲などにより個体数が減少していると考えられ、日本各地で産卵が減少している。本県における産卵は2012年をピークに減少傾向にあり、回復の兆しはない。県内では砂浜の浸食により産卵場環境が悪化しており、また、定置網等により成体および亜成体が多数混獲され死亡している。

【保護対策】産卵場環境の改善および混獲の防止対策を早急に進める必要がある。

【文献】5, 7, 8, 14, 15.

(若林郁夫)

(写真：伊勢市，2004年)



三重県 2025

EN

三重県 2015

VU

環境省 2020

EN

ニホンイシガメ

Mauremys japonica (Temminck et Schlegel, 1838)

カメ目 イシガメ科

【選定理由】生息記録は多数存在し、広域に分布するが、個体数を著しく減少させる要因を複数有する。

【種概要】雌は甲長15 cm、雄は8 cm程度で性成熟。河川や池などの水辺を中心に、田畑や林縁部等の陸域も利用し、果実や昆虫等を採餌する雑食性。

【分布】本州（関東以南）、四国、九州およびその周辺島嶼に分布する日本固有種。県内の記録は、南部では少なく、志摩半島以北の地域が多い。

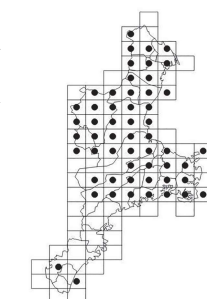
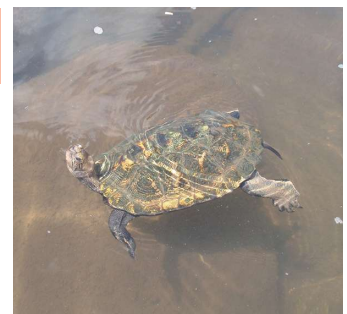
【現況・減少要因】ペット販売を目的とした乱獲による影響が大きい。また、県内の河川では外来由来のクサガメの分布拡大による遺伝的攪乱の実態が近年報告されている。さらに、アライグマによる捕食のシグナルである四肢欠損個体が確認されており、注意が必要である。他にも、アカミミガメとの競合や耕作放棄地の増加にともなう生息地の悪化などは全国的な課題である。

【保護対策】長寿であり、性成熟するまでに長い時間を要するなどの生活史特性がある。そのため個体数の減少が顕在化しにくい側面があり、生息実態を把握する定量的な調査が重要である。分布拡大しているアライグマの予防的対策が望まれる。

【文献】1, 3, 4, 6, 7, 9, 10, 11, 13.

(谷口真理)

(写真：津市，2010年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

NT

ニホンスッポン

Pelodiscus japonicus (Temminck et Schlegel, 1838)

カメ目 スッポン科

【選定理由】外来種との交雑、河川改修等による生息環境の悪化に伴う個体数の減少。

【種概要】甲長約30 cm。体色は褐色ないしは濃緑色。甲羅は扁平で他のカメ類とは異なり鱗板を持たず、柔らかい皮膚で覆われている。吻部が突出し先端に鼻腔が開口し、水かきが大きく発達する。ほぼ水生で河川の中下流域ならびに池・湖沼に生息する。食性は肉食性で、節足動物、軟体動物、両生類、魚類を捕食する。繁殖期は夏で1回の産卵数は10～50個。高級食材であるため、養殖ならびに移送が大規模に行われている。

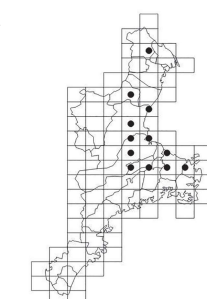
【分布】天然分布は中部以西の西日本と思われるが、広範囲な移植により日本各地に生息。三重県では伊勢湾流入河川のほぼ全てに生息する。

【現況・減少要因】河川改修等の生息環境の悪化により個体数は減少傾向にある。さらに、商業目的で大陸から導入されたチュウゴクスッポン (*P. sinensis*) との交雑が員弁川から宮川に至る広範囲な水域で生じており、本種の減少に拍車をかけている。

【文献】12.

(河村功一)

(写真：亀山市，2023年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

アオウミガメ

カメ目 ウミガメ科

Chelonia mydas (Linnaeus, 1758)



【選定理由】 漁業の混獲による来遊個体の死亡が多発している。
【種概要】 甲長は 80～100 cm で、頭部や背甲は濃緑色から黒色である。孵化直後から甲長 30 cm 程度になるまでの幼体が、どこでどのように生活するかがまだ分かっていない。植物食で、アマモなどの海草、マクサなどの海藻を食べる。

【分布】 太平洋、大西洋、インド洋の熱帯海域から温帯海域、地中海に広く回遊する。日本では小笠原諸島、南西諸島で産卵している。三重県沿岸へは、甲長 40 cm 程度の幼体、亜成体が海藻を食べるため多数来遊する。

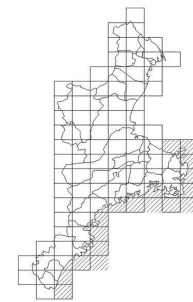
【現状・減少要因】 日本の産卵場における産卵は、ほぼ横ばいか若干増加しており、日本周辺の個体数は比較的安定していると考えられる。しかし、三重県沿岸では採餌のために来遊した幼体、亜成体が定置網や刺網等により多数混獲され死亡している。

【保護対策】 漁業による混獲の実態を把握するとともに、混獲の防止対策を検討する必要がある。

【文献】 2, 5, 7, 8, 14, 15.

(若林郁夫)

(写真：鳥羽市，2018年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

文 献

- Kagayama, S., A. Shimofuji, K. Ohtake, S. Shishikura, D. Ogano, and M. Hasegawa .2021. Changes in population structure of the freshwater turtle *Mauremys japonica* following the invasion of feral raccoon *Procyon lotor* in the southern tip of the Boso Peninsula, Japan. *Current Herpetology*, 40(1): 22–39.
- 亀田和成（編）. 2013. 日本のアオウミガメ. 日本ウミガメ協議会, 竹富, 122pp.
- 亀崎直樹. 2015. 日本の淡水ガメ, 特にミシシippアカミミガメに関する問題について. 爬虫両棲類学会報, 2015(2): 123–133.
- 環境省. 2015. ニホンイシガメの輸出に係る助言に関する意見の募集（パブリックコメント）について：ニホンイシガメの輸出に係る助言について（平成27年10月28日中央環境審議会自然環境部会野生生物小委員会資料3）. <https://www.env.go.jp/press/101596.html>. （2023年4月30日参照）
- 小林優太・米川弥寿代・沈禹璋・堤洋人・和田純奈. 2024. 三重県北部におけるアカウミガメの上陸・産卵状況およびウミガメ類のストランディング状況（2022年）. 三重の生きものだより, (71): 2–5.
- Matsuda, Y., S. Kaburagi N. Kamezaki, H. Ota, H. Takahashi, T. Imazu, S. Kagayama and K. Kawamura. 2025. Density-dependent unidirectional hybridization between the Japanese pond turtle, *Mauremys japonica*, and the exotic Reeves' pond turtle, *Mauremys reevesii*, in Japan, inferred from molecular and morphological analyses. *Zoological Journal of the Linnean Society*, 203(3), zlae070.
- 日本爬虫両棲類学会（編）. 2021. 新日本両生爬虫類図鑑. サンライズ出版, 彦根, 232pp.
- 日本ウミガメ協議会. 2023. 日本ウミガメ誌2023. 日本ウミガメ協議会, 枚方, 51pp.
- 清水善吉. 2019. 八重田池のカメ調査開始—イシガメ消えたか!?. 自然誌だより, (121): 5.
- 清水善吉. 2023. 赤目四十八滝でイシガメとクサガメが交雑. 自然誌だより, (135): 1.
- 清水善吉・富田靖男・上田利彦. 2018. 三重県の哺乳類・爬虫類・両生類. みえ生物誌—哺乳・爬虫・両生類, 鳥類, pp.1–102. 三重自然誌の会, 松阪.
- Suzuki, D. and T.Hikida. 2014. Taxonomic status of the soft-shell turtle populations in Japan: a molecular approach. *Current Herpetology*, 33: 171–179.
- 谷口真理・佐藤由佳・角道弘文. 2020. ため池及びその周辺における日本固有種ニホンイシガメの生息に影響を及ぼす環境要因の推定. 農業農村工学会論文集, 89(1): I_19–I_27.
- 若林郁夫・中村みつ子・半田俊彦・岡由佳理. 2021. 熊野灘北部海域の定置網によるウミガメ類の混獲. 南紀生物, 63(2): 133–138.
- 若林郁夫・中村みつ子・半田俊彦・岡由佳理・井田なつき. 2024. 志摩半島におけるアカウミガメの産卵状況（2022年）. 三重の生きものだより, (71): 6–8.